

マサチューセッツ州コンコード (CONCORD, MA) のビクターマップ

観光スポット

1.コンコードビクターセンター (Concord Visitor Center)、 *58 Main Street*
すべての位置情報、パンフレット、地図を入手できる中心的な施設です。ツアーは一年中ご利用いただけます。

2.南墓地 (South Burying Ground)、 *8 B Main Street*
17世紀初期の墓地です。

3.旧刑務所跡 (Old Jail Site)、 *70 Monument Square* (*左側の緑地*)
奴隷制の拡散を抗議したことによってヘンリー・デイヴィッド・ソロー (Henry David Thoreau) が投獄され、一夜を過ごした刑務所です。ソローはこの経験を基に「*市民的不服従*」というエッセイを書きました。

4.ライトの宿 (Wright Tavern)、 *2 Lexington Road*
1747年に建てられた宿。この宿ではいくつかの重要な革命的な出来事がありました。

5.モニュメントスクエア (Monument Square) と南北戦争記念塔 (Civil War Monument)
モニュメントスクエアの中央に立つ*記念碑*。タウンスクエアには、南北戦争中に国に仕えたすべての人を讃えた1866年の記念碑など、いくつかの重要な記念碑があります。

6.ファースト教区教会 (First Parish Church)、 *20 Lexington Road*
最初の礼拝堂は、レキシントンロード (Lexington Road) に位置しており、現在の場所の反対側に建てられました。宗教的な礼拝や寄合いのための公共の建物は、時として反奴隷制を唱える講演者の演説の場となりました。

7.コンコード・ビジュアルアートセンター (Concord Center for Visual Arts)、 *37 Lexington Road*
コンコード・ビジュアルアートセンター (Concord Center for Visual Arts) は、アメリカ印象派の画家で、男女同権論者であるエリザベス・ウェントワース・ロバーツ (Elizabeth Wentworth Roberts) が1917年に設立してからずっとビジュアルアート (視覚芸術) を扱ってきました。建物とギャラリーを再設計する際、彼女はパートナーのグレース・キーズ (Grace Keyes) と共に、国内で初めて女性のみが所属する建築事務所を採用しました。

8.ヒル墓地 (Hill Burying Ground)、 *聖家族 (Holy Family) の右側にある草で覆われた丘*

町の中心を見下ろす丘の中腹に、最も古いヨーロッパ人の埋葬地があります。自分の力で奴隷の身分から自由になったアフリカ人男性ジョン・ジャック (John Jack) の墓碑銘が世界的に有名です。

9.ファースト・ユニバーサリスト教会 (First Universalist Church) / 聖家族教区 (Holy Family Parish)、 *12 Monument Square*
1841年、若きフレデリック・ダグラス (Frederick Douglass) が、公民権を求める長い戦いを支持してこのユニバーサリスト礼拝堂で講演しました。この教会は1863年に、コンコード初のカトリック教会となり、町で拡大する移民コミュニティを支持しました。

10.コンコードタウンハウス (Concord Town House)、 *55 Monument Street*
1851年に建てられたタウンハウスは、町の住民が政治的イベント、教育的イベント、会議、社会的集まり、娯楽、町や国の重要なイベントの見学や祝賀などのためにこの集会場を借りたため、コミュニティの中心となりました。EWロバーツ (EW Roberts) の絵画「*アンディータムの記憶*」が内壁に掛けられ、一般公開されています。

11.コンコーズ・コロニアルイン (Concord's Colonial Inn)、 *48 Monument Street*
モニュメントスクエアにダイニングルームを持つ歴史的なホテル。1716年以降この建物は多くの役目を果たしてきました。

12.ディー葬儀場 (Dee Funeral Home)、 *27 Bedford Street*
この建物は、1868年以来この町の歴史の立会人およびパートナーとして、エマーソン (Emerson)、アルコット (Alcott)、ホーゾーン (Hawthorne)、ソロー (Thoreau) といった家族に仕えてきました。

13.マリー・ライスの家 (Mary Rice House)、 *44 Bedford Street (Private)*
教師だったマリー・ライスは、自分の力で奴隷の身分から自由になった人々を自宅でサポートしていました。彼女は、ジョン・ジャックの墓石の再配置をサポートし、定期的に花を手向け、墓の世話をしました。

14.スリーピー・ホロウ墓地 (Sleepy Hollow Cemetery)、 *24 Court Lane*
この町で最大規模の墓地で、天然の木々が茂った静かな公園内にはコンコードの文学者の像を見つけることができます。

15.ガリソンの家 (Garrison House)、 *78 Monument Street* (*個人所有*)
1835年に、この丘の頂上に使われなくなった風車が立っていました。1837年ごろガリソン (Garrison) 一家がこの風車に引越してきました。その後、公民権活動家であるエレン (Ellen) の兄弟であるジョン・ガリソン (John Garrison) が現在のコテージを建てました。

16.元武器庫 (Formerly an armory)、 **51 Walden Performing Arts Center**は、コンコード演奏者団 (The Concord Players)、コンコードバンド (The Concord Band)、コンコードオーケストラ (The Concord Orchestra)、オペラ51 (Opera51) を主催しているため、この地域にとって大切な財産です。

17.三位一体会衆派教会 (Trinitarian Congregational Church)、 *54 Walden Street*

1826年に結成されたこの教会は、早くから奴隷制反対運動を主導しました。この教会は1836年に、奴隷を所有している者への入場拒否を提唱しました。

18.マリー・メリック・ブロックスの家 (Mary Merrick Brooks House)、 *44 Hubbard Street* (*個人所有*)
奴隷を売買していた商人の娘・孫娘であるマリー・メリック・ブロックスの家。彼女は、コンコードで最も有力な白人の奴隷制度廃止論者となり、ボストン内外の奴隷制度廃止論者のネットワークに町をつなげました。

19.ビゲローの家 (Bigelow House)、 *19 Sudbury Road* (*個人所有*)
自ら奴隷の身分から自由になった男性シャドラッチ・ミンキンス (Shadrach Minkins) は、1850年5月、ボストンで自由への道を歩み始めました。9ヶ月後、賞金目当てのハンターに捕まりましたが、群衆が裁判所の管轄からミンキンスを救いだし、逃げ道に案内する道中で鍛冶屋のフランシス・ビゲロー (Francis Bigelow) とその妻アン (Ann) の家に立ち寄りました。ミンキンスは、コンコードから列車でカナダへと旅立ち、そこでレストランのオーナーと床屋になりました。

20.コンコード無料公共図書館 (Concord Free Public Library)、 *129 Main Street*
1873年以来この図書館によって、地域住民は情報、アイデア、文化、そしてユニークな歴史的資料に触れることができています。ここは元々、マリー・メリック・ブロックスの家とブラックホース料理屋 (Black Horse Tavern) があった場所です。

21.フランクリン・サンボーンの家と教室 (Franklin Sanborn House & School Room)、 *106 Elm Street* (*個人所有*)
フランクリン・サンボーンは、ジョン・ブラウン (John Brown) がハーバース・フェリー (Harper's Ferry) を襲撃するための資金を調達した「シークレット・シックス (Secret Six)」の1人でした。サンボーンはここで、小さな私立学校を経営していました。連邦保安官は、ブラウンを支援した罪でサンボーンを逮捕しようとしたましたが失敗しました。

22.アンブレラ・アートセンター (Umbrella Arts Center)、 *40 Stow Street*
アンブレラ・アーツセンター (Umbrella Arts Center) は、利用しやすい芸術教育プログラム、舞台芸術と視覚芸術のプレゼンテーション、コミュニティーとの連携を通じて、創造性、学び、個人の成長、文化交流を促進します。

23.エマーソンとソローが散歩した小道 (Emerson and Thoreau Amble Trail Head)
この道は、エマーソンとソローが町の中心部からウォールデン湖 (Walden Pond) やヘンリーの小屋の場所まで散歩していたところと同様の曲がりくねった舗装していない小道です。

24.コンコードセンターMBTA (Concord Center MBTA)、 *90 Thoreau Street*
現在のMBTA駅は以前、バーモント州とカナダへと繋がるフィッチバーグ (Fitchburg) 鉄道駅がありました。町の中心に近かったため、自分の力で奴隷の身分から自由になった人々が本当の自由を手に入れるために支援するコンコード住民の活動の本拠地となっていました。。

25.ラルフ・ワルド・エマーソンの家 (Ralph Waldo Emerson House)、 *28 Cambridge Turnpike*
ハウスミュージアムおよび国定歴史建造物です。

26.コンコード博物館 (Concord Museum)、 *53 Cambridge Turnpike*
この博物館では、あらゆる年齢の訪問者が、コンコードの先住民、革命、文学、奴隷制度廃止論者の歴史について学ぶことができます。2021年に改装が完了した博物館には、レキシントン・コンコードの戦い (1775年4月19日に起こった戦闘) や、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー、ムスケタキッド (Musketaquid) の人々、およびコンコードの奴隷制度廃止論者にフォーカスした特別ギャラリーが設置されています。

27.ベンジャミン・バロンの家 (Benjamin Barron House)、 *245/249 Lexington Road* (*個人所有*)
この建物は、靴職人で奴隷だったベンジャミン・バロンの家でした。時間をかけて、奴隷だったジョン・ジャックは、靴職人と労働者として稼いだお金で自ら奴隷の身分から自由になりました。ヒル墓地にある彼の碑文は、反奴隷制宣言として世界的に有名です。

28.ルイーザ・メイ・アルコットのオーチャードハウス (Louisa May Alcott's Orchard House)、 *399 Lexington Road*
若草物語 (Little Women) が執筆された家であり、ルイーザ・メイ・アルコットとアルコット家を取り上げた博物館です。

29.ウェイサイド、作家の家 (The Wayside, Home of Authors)、 *455 Lexington Road*
作家であるナサニエル・ホーゾーン (Nathaniel Hawthorne)、ルイーザ・メイ・アルコット、マーガレット・シドニー (Margaret Sidney) の家。1775年、検閲官であり州議会代表であったサムエル・ホイットニー (Samuel Whitney) は、家族と2人の男性奴隷とともにこの家に住んでいました。

30.グレープバインのコテージ (Grapevine Cottage)、 *491 Lexington Road* (*個人所有*)
エフライム・ウェールズ・ブル (Ephraim Wales Bull) はこの庭で、コンコードのブドウを開発しました。コンコードのブドウは、ゼリーやブドウジュース用として米国で最も広く栽培されるブドウの品種となりました。彼はスリーピー・ホロウに埋葬されており、墓石には次のように彫られています。「彼が種をまいた。他人が刈り取った。」

31.エッグロックへの道 (Path to Egg Rock)
川沿いのローウェル・ロード (Lowell Road) からこの道を下って空き地まで出ると、そこから川の向こうにエッグロックを見渡すことができます。

32.エッグロック (Egg Rock)
卵形の断続的な島に露出する大きな岩。ここでは、アサベット (Assabet) 川とサドバリー (Sudbury) 川が合流してコンコード川を形成しています。角度によって、岩が卵形に見えることがあります。

33.オールド・マンズ (Old Manse)、 *269 Monument Street*
エマーソン牧師のために建てられ、アメリカの革命を目の当たりにしてきたこの歴史的牧師館は、アメリカの文学関係者団体と、奴隷化の物語、さらには奴隷制度廃止論者の論争の場として有名です。

34.ロビンズの家 (Robbins House)、 *320 Monument Street*
19世紀初頭の歴史的な家で、かつて奴隷だったアフリカ系アメリカ人で、独立戦争の退役軍人であった、カエサル・ロビンズ (Caesar Robbins) の子孫が住んでいました。彼の孫娘で公民権活動家のエレン・ガリソン (Ellen Garrison) の生家でもあります。

35.オールドノースブリッジ・ビジターセンター (Old North Bridge Visitors Center)、 *174 Liberty Street*
オールドノースブリッジ (Old North Bridge) とミニットマン像を見下ろすこのエリアは、1775年4月19日に起こったレキシントン・コンコードの戦いを理解するのにぴったりの場所です。ミニットマン国立歴史公園の中に位置します。

36.リフォーマトリーがブランチャ散歩をした小道 (Reformatory Branch Trail Head)

この道は、1873年にベッドフォード (Bedford) とコンコードの間に建設された鉄道に続いています。約4マイルのこの小道は、いくつかの重要な史跡やグレートメドーズ国立野生動物保護区 (Great Meadows Wildlife Refuge) へ続く樹木の茂った眺めのよい道です。

37.グレートフィールドのはずれ (Edge of the Great Field)
このエリアでは、かつて奴隷だった農民のジョン・ジャック、シーザー・ロビンズ、およびその子孫であるガリソンズ、ピーター・ハチンソン (Peter Hutchinson) など同じくコンコードのアフリカ系アメリカ人で自由の身になった人々が独立を求め、反奴隷制運動や奴隷制度廃止論者の発足の場となりました。

38.グレートメドーズ国立野生動物保護区 (Great Meadows Wildlife Refuge)、 *Monson Road*
2.7マイルもの敷地を有する国立野生生物保護区。この保護区は、現地の魚や野生生物、特に渡り鳥の生息地になっています。

39.ソローの農場および生家 (Thoreau Farm and Birth House)、 *341 Virginia Road*
ソローの生家では、悠々と暮らし、質素な暮らしを実践し、前向きな変化をもたらす新しいアイデアを探求するためのインスピレーションの源になることを追求しています。この土地では、300年以上にわたって農業が続けられてきました。

40.メリアムの交差点とイーストクォーターの校舎 (Meriam's Corner and East Quarter School House)、 *737 Lexington Road*
バトルロード (Battle Road) はここから始まります。4月19日は、小さな暴力による小競り合いから16マイルにおよぶ戦いになりました。また、駐車場の隣には、郊外の農家の子供たちのために1850年に建てられた旧イーストクォーター学校があり、ルイーザ・メイの父である指導監督者bronson・アルコット (Bronson Alcott) が管理していました。

41.プリスター温泉 (Brister's Spring)
赤い炎のようなトレイルマーカーの脇にある浅い谷間では、地下から水が湧き上がってくるのが見えます。票注には、かつてこの近くに住んでいたプリスター・フリーマン (Brister Freeman) に因んでプリスター温泉 (Brister's Spring) と名付けられたと記載されています。

42.プリスター・フリーマンとフェンダ・フリーマンの居住地 (Brister and Fenda Freeman House Site)
ジョン・カミング (John Cuming) 博士の奴隷だったプリスター・フリーマンは、独立戦争の兵士だったもう一人のアフリカ系アメリカ人と一緒にウォールデン (Walden) の森の「古い土地」を購入し、2つの家族で暮らしました。プリスターの妻フェンダ・フリーマン (Fenda Freeman) は古い通り、3人の子供を授かりました。プリスターは日雇い労働者として働き、住民や地元の人々からの頻繁な嫌がらせに耐えました。

43.プリスターの丘にあるソローの道 (Thoreau's Path at Brister's Hill)
この周辺では花崗岩に刻まれていたり青銅で鑄造されていたりするヘンリー・デイヴィッド・ソローの言葉をいくつも見つけることができます。ウォールデン・ウッズ・プロジェクト (Walden Woods Project) はここに、奴隷だった人々がこの国の建国に貢献したことを認めるべく道路沿いに9番目のトニ・モリソン・ソサエティー (Toni Morrison Society) のベンチを設置しました。

44.ウォールデン湖ステートリザベーション (Walden Pond State Reservation)、 *915 Walden St*
国定歴史建造物であり、保護運動の発祥の地と考えられています。

45.ソローの小屋のある場所 (Thoreau's Cabin Site)
ソローの小屋の場所は、ソローがウォールデン湖を離れてからほぼ100年後に考古学者によって発見されました。

46.エマーソン病院 (Emerson Hospital) / 先住民定住圏 (Indigenous Settlement Area)、 *133 Old Road to Nine Acre Corner*
この地域病院は、クラムシェル・ブラフ定住圏 (Clamshell Bluff Settlement) の近くにあり、高い堤防の端には非常に大きな内陸の貝塚がありますが、ここは数千年前に先住民が季節限定で生活していた場所だったと考古学者によって明らかになりました。

47.コンコード矯正施設 (Concord Reformatory)、 *965 Elm Street*
1878年に開設された、マサチューセッツ州で最も古い州立刑務所。マルコム・X (Malcolm X) は、1947年と1948年に15か月間、コンコード矯正施設に収容されました。1988年にはマザー・テレサ (Mother Teresa) がマサチューセッツ州を旅行中にこの矯正施設を訪れました。

48.ジョン・カミングの家 (John Cuming House)、 *998 Elm Street* (*個人所有*)
地方の名士だったジョン・カミングは、地主であり、医師であり、市民軍の中佐でもありました。彼は、70以上のタウンミーティングを主催しました。彼は、後にプリスター・フリーマンとして知られるようになる、ジェム (Jem) とBrister (プリスター) を奴隷としていました。カミングは、ハーバード大学医学部に寄付金を残しましたが、最近になって大学はそれを償おうとしました。

49.バレットの農場 (Barrett Farm)、 *448 Barrett's Mill Road*
かつて、ジェームズ・バレット (James Barrett) 大佐とその家族、そして奴隷のフィリップ (Phillip) が住んでいました。1775年4月19日、大砲と弾薬の入った保管庫を探して、英国の正規軍がこの家を検索しました。

50.ジェロー公園とワーナーズ池 (Gerow Park and Warners Pond)、 *369 Commonwealth Ave*
ワーナーズ池に隣接する7エーカーにわたって樹木が茂った土地です。敷地内にはブルーズ・フリーマン鉄道が走っており、レクリエーションやピクニックを楽しみながらリラックスできるエリアです。

51.ブルース・フリーマン鉄道 (Bruce Freeman Rail Trail)、 *66 Commonwealth Ave*
旧ニューヘブン鉄道 (New Haven Railroad) のフランingham/ローウェル線 (Framingham & Lowell line) へ続く25マイルの鉄道線。線路には幅10フィートの歩道があり、両側に幅2フィートの路肩があり、サイクリング、ジョギング、ウォーキング、ローラーブレード、スキーなどの動力を使わない用途に使用することができます。

52.ウエストコンコードMBTA (West Concord MBTA)、 *Commonwealth Ave and Main Street*
フィッチバーグ (Fitchburg) 線はこの駅に停車します。1894年に建てられたこの駅は、アメリカ合衆国が指定する国家歴史登録財に含まれています。外観は、オリジナルの3色塗装スキームで復元され、クラブカー・カフェ (Club Car Cafe) が入っています。

53.コンコード標識博物館 (Concord Sign Museum)、 *33 Bradford Street*
コンコード中のクラシックな標識のコレクションを60点以上展示する博物館で、20世紀の地域社会の物語を伝えることを目的としています。

54.デーモン工場 (Damon Mill)、 *1700 Main Street*
マサチューセッツ州の初期の繊維工場の1つであるデーモン工場は、サウスカロライナ州、ジョージア州、アラバマ州の農園で栽培された原材料から、ドメット生地と呼ばれる独自のウール綿織物を生産していました。1855年には、南部のブランテーションからの綿を約40,000ポンド消費しました。

55.ジニー・デューガンの小川 (Jennie Dugan's Brook)
トーマス・デューガン (Thomas Dugan) の妻ジニー (Jennie) に因んで名付けられた小川。トーマス・デューガンは、自分の力で奴隷の身分から自由になってバージニア州から逃れてきました。トーマスは、コンコードの農家にゆりかご型ライ麦パンを紹介したことで知られていました。1863年、末息子のジョージ (George) が、43歳で南北戦争のMA第54黒連入隊に入隊し、フォート・ワグナーの戦いで命を落としました。

56.ヴェリール農場 (Verrill Farm)、 *11 Wheeler Road*
家族経営のこのファームストアは1年中運営されており、デリ、生鮮食品、焼き菓子、惣菜、特産品、食料品などが揃っています。季節を問わず家族向けの親しみやすいイベントが多数開催されます。